

キャリア意識形成をめざす導入教育の試み

新潟大学

大学教育開発研究センター 津田 純子

大教センターの津田と申します。ごく簡単に、学生のキャリア意識形成の支援をねらいとして今年度から開設した、新しい科目の試みをお話したいと思います。

初年次教育は現在、大学教育学会が課題研究テーマの一つとしているものであり、このテーマで先進的な米国の事例調査研究やプログラムの開発報告が大学教育関連学協会において多く発表され、研究論文が蓄積されつつあります。このことが示しているように、初年次教育、または導入教育、転換教育が日本においても焦眉の課題となっていることは言うまでもありません。初年次教育の目的は、一つはこれまでご報告いただいた「専門教育への導入教育」であり、もう一つは学びを支援する、つまり「学生生活へのスキルの育成」です。専門家の間では、初年次教育は、学生を主体的に学べるよう支援するという趣旨が強調されています。

各学部で実践されている「大学学習法」、「スタディスキルズ」という科目は、他大学に先駆けて本学に普及し、大学での学習技術の育成を主眼とした教育実践として定着しつつある状況です。大教センターでは、学内に普及している「大学学習法」の教育意図とは若干ニュアンスの違う「学びを支援する」授業の必要性に注目し、大学で明確に何をするかという目的がなく、とりあえず大学に入ってくる多数派の学生たちに、自分というものを見つめ直して将来を考え、将来展望を開きながら大学生活をどう送るかを考えてもらう、そういう教育意図をもつ科目「大学生活を考える」を試行的に開設することにいたしました。

このようなねらいを持つ授業は、本学では既にいくつか実施されています。たとえば、前大教センター長である小林昌二先生が1999年度に開設され、私が引き継いだ「わが学問・教育」があります。学長や名誉教授がオムニバスで担当するこの授業には、学生に大学教員の生き方を知らせるという目的があり、どちらかというと大学院生が将来展望を開くことが主眼になっています。また、人文学部の栗原隆先生は、「新潟大学が育んだ私の世界、私の夢」という、新潟大学の卒業生を講師に招いた講義を開講されています。いずれの科目も学生による授業アンケートで高い評価を受けていることから、新潟大学の学生においても将来展望の契機を与える授業に対する要求が高いといえるで

しょう。教育人間科学部で卒業生を対象にアンケート調査（平成15年度アンケート調査「新潟大学教育人間科学部生の初職選択行動に関する基礎的研究」）をしましたところ、その結果で明らかになったことは、1年次では適性テストあるいは自己発見のガイダンスのような、自分探しができる導入教育が求められていることです。

今回試行した「大学生生活を考える」というオムニバス形式の科目は、このような学生の需要に応じた初年次教育の開発をねらいとしています。今年度前期に開設したばかりですので、教育効果の有無をとやかくいえる状況ではありません。かなり斬新な試みであると、いえるのではないかと思います。

第一に、講師が大教センターの専任とセンター長、キャリア形成教育の関係者、つまり教育実践センターの松井先生と就職課長の塚田さんと並んで、学生が参加した点が挙げられます。自分でサークルを企画している学生たちを講師に招いて、彼らに一部授業を企画してもらって授業を展開するという試みをしました。

第二は、授業方法の組み合わせが非常に多様であることです。学生たちが自分でいろいろな授業を受ける中で、自分に適した学習法はどういうものか考え分析してもらいたいという意図がここにはあったのですが、このような意図が実際に学生たちに伝わり具体化できるまでには至っていません。

第三は、学生の企画を生かした授業時間の設定や学生中心の発表会運営といった、能動的学習者の育成を意図した点です。毎回振り返りシートを書いてもらい、そのまとめを一覧表として配布したことも、授業への学生参加を意図したものでした。

この「大学生活を考える」という授業概要は、一覧表のとおりです（【資料1】、参照）。ガイダンス、ワークショップ、自己表現、グループ発表の時間があります。

たとえば濱口先生担当の「消費者として大学生活を考える」というテーマをもつ授業時間では、大学をテーマパークや専門学校と比較した先生の説明の後に、グループに分かれ、大学とは一体何か、学生は大学で何が期待できる、あるいは何を期待しているのかについてグループ討論し、発表することが課されました。

【資料2】に、その結果が出ております。【資料2】を

ご覧いただきますと、大学は自己実現を支援してもらえる場所であって、主体性というものを育てる場、現実に向き合うような学びができる場と学生はやはり考え、出会いというものも非常に大切に考えているということがわかります。この授業時間では、専門学校と比べて、大学は自己発見しながら将来の可能性が見つけれられる、それから深い学びができて人間性を育む場である、という認識が学生に育まれたわけです。

それに続く吉永先生担当の「大学生生活を考える（出口論）」は、フリーター現象ということに関する講義を通して、自分のキャリア設計ということも考えなければ駄目だという自覚を促す授業時間でした。次に、塚田就職課長のインターシップ制度に関する説明があり、その中で就職部が2年生を対象にすでにインターシップ制度を実施しているという情報に接し、就職部サービスに関する情報が非常に良かったと感想を書いた学生たちはインターシップに実際に参加するに至っています。

その次に、自分たちでいろいろ企画することが好きな学生たちが講師を引き受け、科目担当代表である私と協議しながら、3回授業を企画しました。学生講師の意見では、学生たちにとって一番大きな問題は人間関係であるということなので、「人とのつながりを考える」というテーマを取り上げました。学生講師はイベント企画サークルのリーダーであったこともあって、ワークショップ等を上手にデザインし、人間関係につまずいた場合どういう対応をするかを討論させるケース・スタディ型ワークショップを実現させました。課外に自発的な懇親会が開催され、最後の授業では、学生企業家でNPO法人理事もするなど非常に活発な明治大学商学部3年生を呼んできまして、彼に普通の学生である自分がなぜこのように活発に活動ができるようになったか、講演してもらいました。受講生たちは、彼の講演などから積極性や行動力を評価しベンチャー的な精神をバックアップするような体制が現在の日本社会にあることを理解したように思います。

松井先生の授業では、先生ご自身で開発されたキャリア適性テストを実施しました。その結果をデータ処理し診断するために必要な時間をおくために、その間就職活動にみられる現代学生の問題に関する塚田就職課長の講演がありました。大学大衆化において指摘されている学生の変容に応じて、新潟大学の就職部は全国の国立大学では2番目に設置され、学生の問題状況に対応できるようにきめ細やかなサービス提供が蓄積されてきている現状は、受講生たちに感銘を与え、こんなサービスがあるならば学生にできるだけ早く周知させてもらいたいという希望が多数みられました。キャリア・テスト結果の診断については、一部あまり参考にならなかったと思う受講生もいましたが、おしなべて自分のキャリア適性に関する情報がえられてよかったという反応でした。

最後に講義形式で、「世界の大学改革と学生の役割」というテーマで私が担当しました。現在世界的に大学教育改善のために求められていることは、「学生参加型大学」、「学生中心の大学」への変革であり、教員はコーチ的な役割もしなければいけないということが提唱されている。そのために現場ではいろいろな試みがされていること、欧米では改革過程に学生の参加は当たり前であり、日本でもFDや授業企画などに学生を参加させる試みが既に始まっていること、などと説明しました。一年次生が多数を占める受講生には、内容が少し難しかったようで、今後は大学教育の改善への参加を自分の問題として受け止めてもらえる工夫がさらに必要であると考えています。

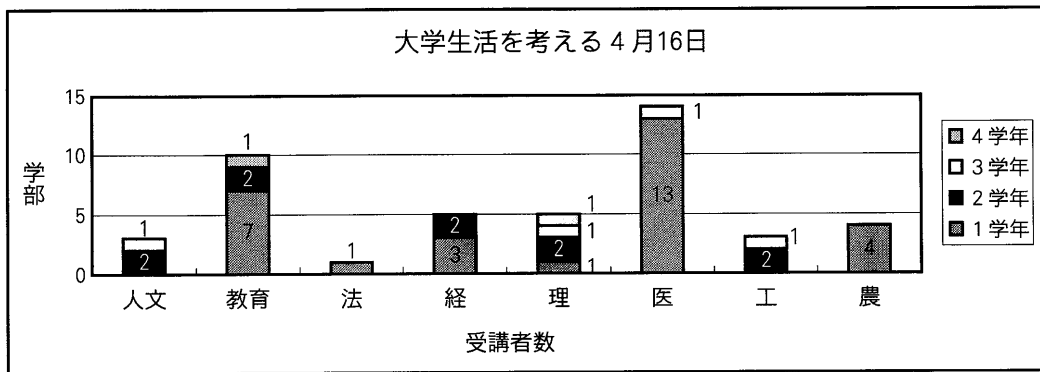
最終の3回授業では、理想的な大学生生活を送るためにどうするか、をテーマとし、学生たちをグループに分け、発表会に向けて準備作業をしてもらいました。グループの発表内容は（資料参照）、新大の学生たちは消極的、受動的であり、自分の理想的な人生を実現していくためには、大学生活の中で人とのつながりを大事にして、積極性を伸ばしたり行動力を身につけなければいけないというものでした。自分自身を変えるために大学に求められるものは、ワークショップ型の授業とか、学生主催のイベントとか、人間的交流の場である、という発表が多かったです。

この「大学生生活を考える」の受講動機の中には、「楽勝講義」という予測もかなりあったようですが、大学生活を考えなければいけないという自覚をもつ学生も履修を希望していたため、70名におよぶ希望者を抽選して47名に制限しました。下図のように、その内訳は1年生が6割、2年生が2割、3年生が8%、4年生4%の割合でした。レジュメにありますように、受講者の所属先は各学部にはわたっていますが、相対的に医学部や教育人間科学部が多かったです。受講者が挙げた授業参加の目標には、「自分に表現力をつけたい」、「自己分析したい」、「自己発見したい」といったものと、「大学生活を見直したい」というのが、大半を占めていました。

成績評価の方法につきましては、学生参加型授業であることから、以下のような工夫をしました。最終のグループ発表会ではその都度学生に評価してもらいまして、発表グループに対する評価を集めてその平均値を出すという形で点数化し、それと期末課題レポートの評点と出席点を総合して成績をつけました。課題レポートは、二つの設題、一つは「充実した大学生活を送る方法は何か」で、今一つ「〈大学生活を考える〉授業の改善策」から選択して作成させることにいたしました。

学生が提出したレポートや学生が毎回出した振り返りシートを総括しますと、授業において良かった点は、キャリア・テストの実施、就職やインターシップの講義をあげています。それから、グループ活動を通して

【図】受講者について



* 授業に参加する目標別にみた受講者（4月9日作成シートの内容から分類）

- ①表現力開発タイプ（コミュニケーション能力や表現力、社交性や対人関係能力の改善）32%
- ②自己見直タイプ（自分を見つめ直し新しい自分を発見）30%
- ③大学生活検討タイプ（大学生活をいかに送るかを考え直す）26%
- ④全回出席目標タイプ4%
- ⑤就職・仕事思考タイプ4%

人とのつながりができるということ。他の学生と比較しながら自己分析ができたこと。学生講師や同世代の学外講師を呼んできたということが、非常に関心を持ったということが評価されていました。

授業を改善すべき点としては、聴講許可の方法と、楽勝講義という印象を与えないための工夫、盛りだくさんな授業内容のために学生が考える時間を多く与える工夫、という点が課題レポートやふり返りシートで指摘されました。

受講者の態度全体を消極的であると感じた学生からは、シラバスで「やる気のある人しか取りません」というようなことをアピールし、適切な学生を集めて積極的な話し合いを仕向けるような授業にした方がいい、という改善案が提出されています。また、盛りだくさんな授業内容を解消するために、別個に就職について考える授業を開設したり、大学生活を考える場を課外に設けたり、学生間の交流の場や学生が将来の夢につ

いて語り合う会を設けてほしい、就職部のサービスを周知させる工夫をしてほしい、といった要望もありました。

教育人間科学部でキャリア教育の研究をしていらっしゃる高橋先生に、この授業をシラバス等で評価していただいたところ、この授業については、もう少し生涯を展望できる、大学生活に終始し過ぎない観点も必要なのではないかということと、授業内容の構成でキャリア適性テストの時間が早過ぎるのではないか、という指摘がありました。

今後このような指摘や受講者の改善案や要望に基づいて、学びを支援する学生参画型授業実践の特徴を生かした授業内容や授業計画に改善し、当初のねらいである「個々の学生が自分のキャリア意識を形成し、主体的に充実した学生生活を送ることを支援する」初年次教育の実現をめざしたいと思います。

【資料1】 授業概要

日付	担当者	授業計画（内容・方法）
4月9日	津田 加藤	ガイダンス ワークショップ（アイスブレイク） ①各受講生の自己紹介用紙の作成（名前・その由来・印象に残った風景画・大学生活でもっとうれしかった場面+裏面に曜日をもから土曜日まで記載） ②全曜日に受講者の中からアートの相手を見つけ、お互いに自己紹介。 この授業に参加する自分の目標の作成
16日	加藤	ワークショップ（自己発見、自己表現） ①グループ形成 各自の似顔絵を描きその下に「～な大学生になりたい○○○○です」を書き、班内でそれぞれ自己紹介。 ②詩「あ！」を班構成員全員でいかに表現するか打合わせをし発表する。

4月23日	濱口	<p>消費者として大学生生活を考える（「大学とはどういうところか?」「何を目的に大学に入学したか」を考えさせる） 資料1</p> <p>①講義 消費者の視点から、「大学」「テーマパーク」「専門学校」に対する投資額や対価を得る方法を対比させて、類似点を説明</p> <p>②グループ討論 大学とテーマパークから得るものの違い、(2)「大学と専門学校から得るものの違い」について、各自がその考えをまとめた後、グループ別に討論</p> <p>③発表会</p>
30日	吉永	<p>大学生活を考える（出口論） 対話型授業</p> <ul style="list-style-type: none"> フリーター現象への理解を深めることを通して、個人のキャリア設計のあり方とそのための新大の教育環境を考えさせる。 <p>玄田有史『仕事のなかの曖昧な不安』中央公論新社¥1995〈予習テキスト〉</p>
5月7日	塚田／津田	<p>インターンシップ制度 講義形式</p> <ul style="list-style-type: none"> 職業意識を形成するためには効果的なインターンシップ制度と、全国国立大学において先駆的な新大就職部のさまざまな取り組みに理解を深めさせ、本学のインターンシップ制度と就職部相談サービスを今後十二分に活用する契機を与える。
14日	佐藤／村山／津田	<p>人とのつながりを考える [I] ワークショップ</p> <p>①学生講師、村山（農学部四年）佐藤（医学部四年）の自己紹介。</p> <p>②4人構成のグループでインタビューゲーム グループ内で2人ずつのペアをつくる→ペア作業（聞き手と受け手を決めインタビュー、聞き手はMEMOを取る→役割を交代しインタビュー）→グループ作業（ペアの相手を他のメンバーに紹介、それを聞いてそれぞれメモしキャッチフレーズを付ける。（キャッチフレーズは一覧表にまとめて次回配布）</p>
21日	佐藤／村山／加藤	<p>人とのつながりを考える [II] ワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> 人付き合いに関するトラブル事例についてグループ討論と全体発表会 <p>①グループ作業</p> <ul style="list-style-type: none"> アイスブレイキング、各人の「キャッチフレーズ」について話し合う。 4事例のうち各グループに1事例を割り当て、すべてのメンバーに役割分担（司会・発表者・計時者・書記2）し、グループ討論。 <p>②全体発表会 *学生による懇親会（15名参加）</p>
28日	佐藤／村山／益満／津田	<p>人とのつながりを考える [III] 公開講演+小さなワークショップ</p> <p>NPO法人理事、学生のためのビジネスイベント運営者、学生起業家などとして活躍する益満寛志（明治大商学部3年）さんの講演を通して、大学生活を充実させるために何が必要か考える。</p> <p>*益満さんを囲む会（15名参加）</p>
6月4日	松井	<p>キャリア適性テストの実施</p> <p>受講生が職業適性を自己診断するために、松井教授が共同開発した「CAPA」就職適性テストを実施する。</p>
11日	塚田／津田	<p>就職活動に見られる現代学生の動向 講義形式</p> <ul style="list-style-type: none"> 導入；学生と社会人の違いは何か。現代の「大卒無業」増加問題。大学生活は職業生活のスタートライン。 平成15年度 新大卒業生の進路先と就職率。（企業・公務員・教員・進学） 現代学生の就職上の問題（「早期離職」、将来展望のないパラサイトシングル、400万人を越えるフリーター） 就職戦線 就職部の支援 前回講義に関する質問に答える。

6月18日	松井	キャリア・テスト結果の診断 講義形式 「CAPA」就職適性テストの結果を正しく理解し、今後のキャリア形成に役立たせるために指導する。
25日	津田	世界の大学改革と学生の役割 講義形式 現在の大学生活が、国際的な大学改革の動向（学生参加と教育重視）において方向づけられていることを理解し、新大も含む日本で試行されている大学教育改革の最先端を学び、それぞれ自分の大学生活を考える。
7月9日	津田	理想的な大学生活を送るためにどうするか [I] <ul style="list-style-type: none"> • 理想的な大学生活を思い描き、現実とのギャップを把握し、少しでも現在の大学生活を理想に近づけるためにどうするか、個人作業とグループ作業を通して考える。 • 学生中心のワークショップ。 <ul style="list-style-type: none"> ①これまでの授業全体の総括 ②学生運営委員会を中心とするグループ作業 4人グループでテーマのもとに討議してまとめ、7月16日・23日に発表する。
16日	津田	理想的な大学生活を送るためにどうするか [II] 発表会<1> 5グループ（聞き手は評価表の作成） <ul style="list-style-type: none"> ①柔軟で自分をもつ親を育てるために、学生の目線でわかりやすい授業とこのような授業の開講。 ②目標のある人生を築くために、情熱の対象を見出す事を重視し、趣味時間を保障（出席不問）。 ③夢のある公務員を育てる為に、ワークショップ型授業や学生主催のイベント、交流の場を奨励。 ④後悔しない生涯のために、積極性を伸ばし意欲を高める授業や教員との対話、全学的イベント。 ⑤自己を確立し幅広い交友関係のある人を育てるために、学生の意見を大学に反映する。
23日	津田	理想的な大学生活を送るためにどうするか [III] 発表会<2> 6グループ <ul style="list-style-type: none"> ①やりがいのある仕事を見つけるために、自己分析のための討論と大学に参加する ②人生を楽しめる人になるために、積極性を育て学生が授業を創る。 ③相互に貢献できる関係を築ける人になるように、積極性と交流の場を設ける。 ④夢を実現できるように、自分の情熱を見つけ行動力を身につける。 ⑤仕事や趣味を通して自信が持てる将来の為に、社会を見据えた経験と興味ある授業履修の保障。 ⑥目標を明確に持ち実現に向け努力できるようになるため、関心のあることに積極的に参加し人とのつながりを大切にする。 *懇親会（8月6日）

【資料2】消費者として大学を考える（4月23日提出物「作業シート」から）

1. 大学・テーマパーク・専門学校における得られるものの違い

1) 大学vsテーマパーク

項目	所要時間	目標達成度	得られるもの	獲得方法	内容	入場資格	出会い
テーマパーク	1日以内	○ 金に依存	○ 営利目的の既成施設利用による一時的快樂/思い出	順番待ち	遊び/ 厳しい現実からの解放	入場料、 団体割引あり	?
大学	4/6年	? 不確定/ 目的多数	○ 自己実現支援の場/ 学生主体のイベント等創造活動/ 将来への力・知識・ 学歴/夢実現、資格・ 学位取得/得意分野を持つ喜び	主体性/ 行動力/ 努力・苦 労（通学、 試験、進 級、単 位・資格 取得）	遊び/ 学び/ 資格取得 一般教養 専門知識 /現実に向き合う	受験資格、 入試合格→ 大学生の身分	○ 新しい出会い・ 人間関係/実生活に 有用な共生の学び、 多様な価値観のもとで グループ活動・ 作業

2) 大学vs専門学校

	知 識					入 試	出 会 い	将 来 像	学 習 状 況	キャンパスライフ	資 格 取 得	
	将来 必要 知識	専門 知識 技術	広い 教養、 視野	選 択 肢	即 戦 力							
専門学校	○	○ 実践的 知識	×	×	○	無/易	狭い範囲 /同志	限定、キャリア アップ→明確な目的意識 必要	短期部分学習 /多忙	×	施設収容規模 小	○ 多数可
大 学	○	○ 研究機 関として卒論 指導	○ 強制部 分あり	○	?	難	広範・多 様/出身 域、先輩、 教授ほか	選択余地 あり→自己発 見しつつ将来 の可能性性拡 大、大学院	長期総合的学 習/多忙では ない/深い学 び	○ 人間性を育む		○ +学位、高学 歴

【資料3】「大学生生活を考える」への参加を考える（7月9日ふりかえりシートから）

1. 何故この授業を選んだか

<対人関係志向タイプ>

- 色々な人と出会えると思ったから。
- 少しは社会的になれるかと思ったから。
- 留学生として色々な日本人の友達を作り、自己発展するためのプラスにしたかったから。
- 友達を作るため。
- 「ワークショップ」という形式に興味を持ったから。(2人)

<自己見直しタイプ>

- 自分の偏った考え方を、色々な人と話す中で、良い方向に変えていきかけたから。
- 自分自身を見つめなおすため。(4人)
- 大学生となった自分をもう一度見つめ直したいと思ったから。
- 目標を見つけるため。
- これからの大学生生活を過ごす上で、もう一度見つめ直して、何が必要かを考えられると思ったから。
- 自分自身の考えを整理して、分かるように表現・説明する能力を身につけるため。

<大学生生活検討タイプ(1年生)>

- 1年生なので、何も分からないまま大学生生活を過ごすよりは、このような授業を取って、4年間の大学生生活をより有意義に過ごす事ができると思ったから。(2人) / 1年生ということで「大学生活とは何か」ということを考えてみたかったから。(2人)
- 大学生活を中身の濃い、充実したものにしたかったから。(2人) / 大学という教育機関を選んで、本当に良かったと思えるようにしたいと思ったから。 / 大学生活を遊びだけ、勉強だけ、ではなく、充実したものにしたかったのだ。
- 大学生活の意義を考えたかったから。 / 大学生活というものが漠然としていたので、知りたかったから。 / 自分の大学生活が、全く予想もつかなかったので、色々な人の話を聞きながら参考にしたいと思ったから。 /
- 大学生とはどのような生活を送るのか、そもそも大学生とは何なのかを知りたいと思ったから。 / 大学生活を過ごすにあたって、色々なとらえ方があると思い、その世界を見てみたかったから。
- 大学に入って、これからの方向性を見つけたかったから。 / 大学生活をこれから送っていく上で、自分は何をすべきか、何を考えていくべきかを少しでも学びたかった。大学に入り、充実した納得のいく大学生活を送るため。
- 「大学生活を考える」というタイトルに目を引かれて選んだ。入学したてで「大学」という特性がまだ良く分かっていなかったで、とても興味を引かれたからだ。折角大学に入ったのだから意味のあるものにしたい、という願いもあったから。
- 大学生活に不安があったので、参考になると思ったから。
- 大学に入った事で満足し、だらけてしまいそうだったので、大学生になって何をしていったら良いか、と自分で考える事ができるような授業だと思ったから。

<大学生生活検討タイプ(2年次以降)>

- 今まで自分の満足できるような生活を送っていなかったので、授業の名前通り、大学生活について考えたか

たから。具体的に何について考えたかった、とは考えていなかった。とにかく、自分のプラスになるような授業と取ろうと思ったから。

- 自分の大学生生活を見つめ直して、改善したかったから。
- ここまで何も考えずに生活してきたので、もう一度、入学した時の事を思い出して、大学生生活を考え直したかったから。
- 真剣に大学生生活を考えるため。

<将来・仕事検討タイプ>

- 将来について考えてみたいと思ったから。／自分の将来につなげるため。
- 適性を考える良い機会だと思ったから。
- 仕事について、改めて考えてみたかったから。
- キャリア適性テストの受験のため。
- 職業適性テストが面白そうだったから。

<授業内容／時間選択タイプ>

- シラバスを読んで、今までに受けた事のない授業内容で、実際にどんな事をするのか気になったから。
- 今までにないような授業だと思い、おもしろそうだったから。
- 先生からの一方的な授業ではなく、学生が参加できる授業だったから。
- 他とは違った内容の授業だったから。
- 他の教養科目とやることが違って、面白そうに思ったから。
- 他の授業よりも勉強しなくて良さそうだったから。
- 最初は単位がとりやすそうだったから。
- 時間が空いていて、単位を取るのにちょうど良かったから。
- 空席になっていたから。
- 自分の授業の時間配分の中で、ちょうど良い時間だったから。
- この時間が空いていたので、何かやろうと思ったから。

2. 授業参加の目標

<対人関係志向タイプ>

- 恥ずかしがらない。／人と話す機会のある講義だから、恥ずかしがらずに参加（発言）する。
- この授業を通じて、異なる学部・学科の学生から、良いものを教えてもらって自分のものにしたい。
- ワークショップを知りたい。
- コミュニケーション能力の向上。／色々な人と、簡単にコミュニケーションできるような人になりたい。／人とのコミュニケーションをしっかりとれるようになる。
- 自分の考えを人に分かるように伝えられる能力を身につけたい。／他人と話す時に、自分の意見を他人にしっかり表現できるようになりたい。(2人)
- もっと社交性を身につけたい。
- 人間関係を上手く築けるようになりたい。／誰とでも仲良く出来る人になる。
- 「行動的な大学生」になる。／積極的に行動できるようにする。(2人)
- より良い仲間・友達を作る。(2人)

<自己見直しタイプ>

- 自分を見つめ直す。(5人)
- 違った自分を見つける。／新しい自分探しをする。
- 自分を深く知る。

<大学生生活検討タイプ> (1年)

- 自分のこれからの大学生活に、何が必要であるかを見つめなおす。
- 大学生活を充実させるにはどうすれば良いか、を考える。(3人)
- 大学生活を送る上で成長し、充実した大学生活を送るための参考にする。
- 有意義な大学生活を送れるようにする。
- 積極的に参加して、自分の大学生活を充実したものにする。(2人)
- ここまでの大学生活を考えて、残りの大学生活は、良かった事は継続し、悪かった事は改善し、後悔のない大学生活を送る。

<大学生生活検討タイプ> (2年以降)

- 自分の大学生活や、将来についての事を自分で考えられ、そこに向かって主体的に行動できるようにする。
- 3年間を過ごして大学生活がどうだったかを振り返る。
- 理想の大学生活について真剣に考える。
- 自分の大学生活を見つめ直して、改善する。

<将来・仕事検討タイプ>

- 仕事について考える。
- 自分の将来に向けて何をすべきなのかを考える。
- 自分の適性を理解する。
- 将来の展望を立てる
- 将来について前向きに考える。

<その他>

- 最初の授業に出席しませんでした。(2人)
- 卒業時に楽しかったと思えるようにしたい。

3. その他

<ここまで授業を振り返って>

- 4月に比べたら改善していったと思う。しかし、まだまだ(自分に関して)改善の余地ありだと思う。
- この授業をとって良かったと思う。
- 自分の大学生活を見直す良い機会になった。
- グループ作業を何回かするうちに、自分の考えを持って人と発表し合うことで、考えが深まることがわかった。
- 少しだが、大学生活を考え直せたと思う。
- 色々な人と話せたので、そこから学ぶことがあった。視界などの経験もできて、自分を広げられた。

<前回の授業(世界の大学改革と学生の役割を考える)の感想>

- 受け身の大学生活になってはいけないと思った。
- 自分の知らないところで色々動いていて驚いた。
- もっと新潟大学でも学生に自治をさせるべきだと思う。

<今日の授業を振り返って>

- 話し合いについて、最初はスムーズにいかなかったが、主題が決まってからは話が進んで良かった。
- 人間はやはり奥が深い生き物だ。十人十色とは良く言ったもので、色々な考え方が出てくる。それを材料として、自分の考えをより深めることができるし、新たな面から物事をとらえられるようになる。学生に必要なものは“話し合い”だ。
- 発表内容を考える上で、この講義を受けてきた総まとめとして、自分なりに考えたいと思う。
- 他の人の本音が聞けてよかった。
- 皆で意見を出し合って、論理が通るようにするのが、難しかった。
- 今日の授業は今までで一番大変でした。

<話し合いの時間について>

- 今回のグループワークは時間が短すぎて内容の薄いものになってしまったので残念でした。
- 話し合いの時間が短かった。
- グループ作業は思ったよりも時間が足りなくて大変だった。
- 意見がまとまらなかった。